



2026年5月13日

各位

会社名 スター・マイカ・ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 水永 政志
(コード 2975 東証プライム)
問合せ先 執行役員 長谷 学
TEL 03-5776-2785
URL <https://www.starmica-holdings.co.jp>

連結業績予想の修正及び配当予想の修正(増配)に関するお知らせ

当社は、2026年5月13日付の取締役会において、2026年11月期の連結業績予想及び配当予想(2026年1月13日公表)について、下記のとおり修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 2026年11月期 第2四半期(中間期) 連結業績予想の修正(2025年12月1日~2026年5月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	百万円 38,764	百万円 5,083	百万円 4,229	百万円 2,890	円 銭 85.00
今回修正予想(B)	43,182	6,557	6,012	4,067	119.61
増減額(B-A)	4,418	1,474	1,783	1,177	
増減率(%)	11.4	29.0	42.2	40.7	
(ご参考) 前期実績 (2025年11月期第2四半期)	33,722	4,017	3,549	2,431	73.01

(2) 2026年11月期 通期連結業績予想の修正(2025年12月1日~2026年11月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 84,715	百万円 9,298	百万円 7,494	百万円 5,095	円 銭 141.61
今回修正予想(B)	89,168	10,449	8,771	6,030	167.62
増減額(B-A)	4,452	1,150	1,277	935	
増減率(%)	5.3	12.4	17.0	18.4	
(参考) 前期実績 (2025年11月期)	69,158	7,314	6,156	4,184	124.40

※上記(1)及び(2)の数値は、現時点で予想可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績は、今後様々な要因によって上記数値と異なる場合があります。

(3) 修正の理由

当社グループは、中期経営計画「Find the Value 2026」に基づき、収益性及び資本効率を重視した経営管理を実践してまいりました。

第1四半期において過去最高の売上高及び利益を計上した後も好調な業績を維持しており、当第2四半期累計期間及び通期の期初予想に対しても、極めて良好に進捗しております。

この好業績を牽引した主な要因は、構造的なビジネスモデルの進化にあります。具体的には、強みであるオーナーチェンジ物件への回帰が奏功し、仕入からリノベーション販売に至るサイクルが最適化され、販売戸数が大幅に増加いたしました。併せて、戦略的に推進する都市部の中～高価格帯領域における販売強化が着実に成果を上げ、平均販売価格及び総利益率がともに上昇しております。これらが強力なドライバーとなり、今回の増益に繋がりました。

以上の状況に鑑み、第2四半期累計期間及び通期連結業績予想を上回る見通しとなったため、上記のとおり修正を行うものであります。

2. 配当予想の修正

(1) 修正の内容

	年間配当金		
	第2四半期末	期 末	合 計
前回予想 (2026年1月13日)	22円50銭	22円50銭	45円00銭
今回修正予想	25円50銭	25円50銭	51円00銭
前期実績 (2025年11月期)	15円00銭	22円00銭	37円00銭

(2) 修正の理由

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題のひとつと位置づけております。そこで中期的には、次のキャピタルアロケーションポリシーに基づき、利益配分については、今後の成長投資を優先したうえで、年2回の中間配当及び期末配当として安定的かつ増配にて実施していくとともに、PBR1倍割れ等割安と判断する場合に機動的に行う自己株式の取得と合わせて、総還元性向40%を目指しております。

(キャピタルアロケーションポリシー)

長期での企業価値の最大化を実現するため、次の5つを基本ポリシーとし、規律ある成長投資と株主還元を実現することを目指します。

- ① ROE向上、株主資本コストの適正水準維持により、企業価値及びエクイティスプレッドの最大化を目指す
- ② 自己資本比率を注視しつつ、低コストでの借入を図る
- ③ 新たな価値を創造するために、成長投資を優先させる
- ④ 成長投資後の余剰資金については、安定配当・増配を継続する
- ⑤ PBR1倍未満の場合、機動的に自己株式の取得を行い、総還元性向40% / EPS成長14%を目指す

前記「1. 業績予想の修正」に記載のとおり、極めて良好な業績や財務状態を踏まえ、キャピタルアロケーションポリシーに基づき、2026年11月期の中間（第2四半期末）及び期末配当予想を、それぞれ1株当たり3円増額し、25円50銭（年間配当予想45円00銭から51円00銭）に修正することといたしました。

これにより、年間配当予想は1株当たり51円00銭となります。当期におけるDPS（1株当たり配当金）の引き上げ額は14円に達し、過去最大を記録した前期実績（14円増配）と並ぶ、極めて高い増配水準となる見込みであります。

以 上